

報道関係各位

コロナ禍でも“じかに見て触って学ぶ楽しさ”伝える理科実験講座
「身近な夏の不思議体験 2021 イン山科」を開催
実験を通して地域の大人と子どもをつなぐを育む

京都薬科大学(京都市山科区)は2021年8月1日(日)、地域の小学生40人を対象に理科実験講座「身近な夏の不思議体験 2021 イン山科」を2年ぶりに開催しました。

今回で10回目となる本講座は、地域の市民組織「山科区『はぐくみ』ネットワーク実行委員会」がボランティアで運営に参画しており、小学生が理科に対する興味を持つきっかけづくりの場として、また大人と子どもがコミュニケーションを図り、地域の中でつながりを育むことを目指して実施しています。

2011年から2019年まで、山科区内全13小学校の4～6年生を対象に毎年約120人を募集し、延べ1,000人以上が参加する人気イベントとなっていました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、残念ながら中止としていました。今年度は、コロナ禍で依然として厳しい状況が続いているものの、「ぜひ開催してほしい」という地域の方々の声を受け、参加児童の定員を40人に制限し、感染防止対策をとった上で開催しました。



「普段不思議に感じることを、身近なものを使って調べる」をテーマに、今年は植物に含まれる色素「アントシアニン」に着目し、「紫色の秘密～植物の色素で身近な溶液を調べよう～」「寒天に3D模様をつけてみよう」の二つの実験を実施。当日は、165人の応募の中から抽選で参加が決定した37人の小学生が参加しました。

参加した児童からは、「新型コロナで色んなことができなくなっているけど、参加できて楽しかった。」や「やさしく教えてくれて分かりやすかった。家族に教えてあげたい。」などの感想が聞かれました。

本講座を通して、コロナ禍においても自分で直接見て触って学ぶことの大切さ、楽しさを子どもたちに感じてもらうことで、理科や科学だけでなく「学び」そのものへの関心を高めるとともに、それを支える地域の大人とのより密な信頼関係を築く一助になればと考えています。

「身近な夏の不思議体験 2021 イン山科」の詳細

開催日時 : 8月1日(日) 14時~16時
参加者 : 山科区内の小学4~6年生 37人
主催 : 京都薬科大学(活動主体:学生実習支援センター)
共催 : 山科区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会
後援 : 京都市山科区役所

※本講座は独立行政法人 国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金助成活動」として実施しています。

【活動の目的】

身近な科学を題材にした実験を通して、小学生が理科に対して興味を持ってもらうことを主な目的とし、白衣を着用して大学の実習室という高度な設備を利用することで、科学者の疑似体験をしてもらいます。また実験で使用した道具の一部は持ち帰り可能とし、自宅でも実験をできるようにすることで興味継続を図ります。

【実験 1. 紫色の秘密~植物の色素で身近な溶液を調べよう~】

植物に含まれる色素「アントシアニン」は、水溶液の性質(酸性、中性、アルカリ性)によって色の変化が起こります。この性質を使って、身の回りにある水溶液の性質を調べます。

【実験 2. 寒天に 3D 模様をつけてみよう】

実験 1 で使った植物の色素「アントシアニン」と食塩が入った寒天に炭素棒を差し込み、電気を流すことによって、寒天に立体的に模様をつけます。食塩水は電気を通すことにより化学反応(電気分解)が起こり、電極の片側に塩酸(酸性)、もう片方には水酸化ナトリウム(アルカリ性)が発生します。この性質と植物の色素「アントシアニン」が酸、アルカリによって色が変わる性質の両方を実験に利用します。

本件に関するお問い合わせ先

京都薬科大学 企画・広報課
担当: 谷垣
TEL: 075-595-4691 FAX: 075-595-4750
kikaku@mb.kyoto-phu.ac.jp